

情報公開文書

研究の名称	母親学級プログラムの産後の母子コミュニケーションへの効果
整理番号	R2016110
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	富山大学学術研究部医学系母性看護学 教授 長谷川ともみ
研究の概要	<p>【研究対象者】 通院患者のなかで、下記条件を満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 初産婦(2) 日本人(3) 単胎、正期産(4) 20歳以上 35歳未満(5) 母子共に産褥および新生児の経過が良好である(6) ABR（聴覚脳幹反応）検査にて異常を認めない新生児 <p>(1)～(6)かつ、母親学級受講者</p> <p>【研究の目的・意義】</p> <p>目的 「マザリーズ演習」を取り入れた母親学級プログラムの産後の母子への介入効果を明らかにする。</p> <p>意義 母親が児とのコミュニケーション方法を妊娠中に学習することで、出産後わが子と対面した時から、コミュニケーションを通して母子の相互作用を促し、児の要求を読み取ることが早くできるようになり、育児不安感や困難感が軽減できる。</p> <p>【研究の方法】</p> <p><u>研究対象</u> 対照群、介入群ともに、入院分娩後に調査協力依頼を行う。 通院患者のなかで、下記条件を満たすもの。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 初産婦2) 日本人3) 単胎、正期産4) 20歳以上 35歳未満5) 母子共に産褥および新生児の経過が良好である6) ABR（聴覚脳幹反応）検査にて異常を認めない新生児 <p>1)～6)かつ、母親学級受講者。</p> <p><u>リクルート方法</u> 産褥5日目に紙面により研究の趣旨を説明し同意を得る。</p> <p><u>方法</u> 対象の振り分けは、協力施設の管理者に依頼し介入となる母親学級の時期を決めてもらい、介入となる母親学級を受けた人のうち同意が得られた人を介入群とし、通常の母親学級を受けた人を対照群とする。これは、同時期に両群の研究を行うと群間に影響を及ぼすため、対照群と介入群の期間を2か月程度調査時期をずらし、共に同数となるように設定する。</p>

	<p>対照群</p> <p>妊娠期に通常の母親学級を受講し、産後5日目、1か月健診時に母親と新生児のコミュニケーションの様子を10分間児の表情や母親の話し方をビデオ撮影する。</p> <p>質問紙によるアンケートを行い、母親の認知評価を測定する。</p> <p>介入群</p> <p>妊娠期に通常の母親学級に加え、児とのコミュニケーション技術の映像を母親に視聴させ新生児モデルを使用し演習を行う。産後5日目、1か月健診時に母親と新生児のコミュニケーションの様子を10分間児の表情や母親の話し方をビデオ撮影する。</p> <p>質問紙によるアンケートを行い、母親の認知評価を測定する。</p> <p>【研究期間】 2017年2月28日～2022年12月31日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 日本母性衛生学会への学会報告及び論文投稿</p>
<p>研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)</p>	<p>録画された映像、質問紙(母子相互評価尺度、産褥期育児生活肯定感尺度、エジンバラ産後うつ質問得点表) HANDYCAM(HDR-CX485)、SDカード 他機関への提供:なし。</p>
<p>研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名</p>	<p>富山大学学術研究部医学系母性看護学 教授 長谷川ともみ 社会福祉法人恩賜財団済生会富山県済生会高岡病院 看護部長 下崎ふみ子</p>
<p>研究資料の開示</p>	<p>研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。</p>
<p>試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)</p>	<p>富山大学学術研究部医学系母性看護学 教授 長谷川ともみ</p>
<p>研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口</p>	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7430 FAX 076-434-7430 E-mail thase@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 長谷川 ともみ</p>